

第 8 回 支援機関を通じた中堅・中小企業等の

DX 支援の在り方に関する検討会 議事要旨

【開催日時】2024 年 2 月 26 日(木) 15:00～17:00

【開催場所】経済産業省会議室及びオンライン(Teams 会議)によるハイブリッド会議

【委員出席状況】

出席者(敬称略)	所属	備考
三谷 慶一郎(座長)	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 主席研究員 エグゼクティブ・コンサルタント	現地参加
井川 浩二	株式会社ふくおかフィナンシャルグループ ソリューション事業本部 副本部長	現地参加
岡田 浩一	明治大学経営学部 教授	Teams 参加
田口 潤	株式会社インプレス 編集主幹 兼 IT Leaders プロデューサー	現地参加
中尾 克代	株式会社 DX 経営研究所 代表取締役	現地参加
宮村 和谷	PwC Japan 有限責任監査法人 執行役	Teams 参加
武藤 元美	株式会社福岡情報ビジネスセンター 代表取締役	Teams 参加

【議題】

1. 開会
2. 事務局より資料説明
3. 討議
4. 閉会

【配布資料】

資料 1 議事次第

資料 2 委員等名簿

資料 3 「支援機関を通じた中堅・中小企業等の DX 支援に関するガイダンス(仮称)」草案(非公開)

資料 4 「支援機関を通じた中堅・中小企業等の DX 支援に関するガイダンス(仮称)」参考資料構成(案)
(非公開)

資料 5 参考資料(これまでの検討会での議論内容・今後のスケジュール)

【議事要旨】

1. 開会

- 事務局より出席者・注意事項確認及び運営ルールの説明

2. 事務局説明資料説明

- 資料 3 「支援機関を通じた中堅・中小企業等の DX 支援に関するガイダンス(仮称)」草案、
資料 4 「支援機関を通じた中堅・中小企業等の DX 支援に関するガイダンス(仮称)」参考資料構成
(案)に基づき事務局より説明

3. 討議

- 全体の流れに異論は無く、これまでの議論をまとめられている。
- 地域には多様な支援機関があり、支援機関の種類を示した上で、その中の一つとして例えば地域金融機関や IT ベンダーを取り上げ、地域企業と運命共同体であるという流れにすると納得感が生まれるのではないかと。
- 地域金融機関と中堅・中小企業等は運命共同体であり、DX 支援を進め、地域活性化を目指さなければ地域金融機関の存在意義が問われるのではないかと。
- 大手でも真の意味で DX を実現している企業は少なく、中堅・中小企業等をいかにデジタルイゼーションに押し上げるかが重要。デジタルイゼーションやデジタルイゼーションのフェーズも強調すべき。
- 中堅・中小企業等は DX という言葉に怯んでしまい、自分ごと化できていないこと、支援機関側の DX 支援実行に対する恐れがある。両者に向けて、DX 以前の簡単な取り組みから始めても良いと伝えていくことは、非常に重要。各社が最初の一步を踏み込めるような内容をガイダンスに織り込んでいくべきではないか。一方で、その先の段階も見据えて DX を推進していく必要がある旨も表現すべきであり、最初のハードルは下げた上で、その先の段階については、連携等により点から面への支援として移行していくことが重要。
- 中心的に DX 支援を行う支援機関側が支援に際して最後まで責任を持ち、被支援者に安心感を与えられるような環境づくりが重要であると認識。
- DX 認定制度やデジタルガバナンスコードを含めた政策ツールについて強調し、一覧化することで支援機関側の活用を促せるのではないかと。
- DX 支援において、デジタルの利便性を一度認識した上で、次の段階に至るために工夫をしていくという、きっかけづくりのアプローチも重要。

- 被支援者の課題等の状況に関する情報連携は、中堅・中小企業等の支援においては、非常に重要ではないか。
- 地域経営者へ、地域活性化のために DX を進める必要があることを伝える必要があるが、話をする際には企業側のサービスを深く理解しなければならない。支援者は企業のサービスの知識が必要であり一緒にタッグを組んでリングに上がる心構えが重要。
- 経営者には、寄り添って一緒に考えてくれる支援者が必要であり、共感のようなポイントがあるべきマインドセットとして定義されていることが非常に重要。
- 地方の中堅・中小企業等の経営者および支援機関では、なぜ DX が必要か、納得していないケースが多い。長いデフレ期で投資に消極的になっている環境の中、DX を進めていくことの重要性を強く表現すべき。
- 読み手の意識が散漫になる恐れがあるため、ガイダンス本編は極力シンプルにするのが良いのではないか。支援機関側はもちろん、中堅・中小企業等の経営者や担当者が読むことも考慮し、より簡潔な表現やわかりやすい記載を意識すべき。
- ポイントが一目見てわかる構成にできれば、読み手を増やしたり、DX 支援を拡大したりしやすいのではないか。
- 地域金融機関、地域 IT ベンダーが危機感を持ち、主体的に変革を起こしていくためのトリガーになるべき。

4. 閉会

- 事務局より今後の進め方について説明
 - 次回以降の検討会について、第 9 回を 3 月 15 日に対面とオンラインのハイブリッドで開催する。
 - 第 9 回ではガイダンスの最終化に関する内容とさせていただく。

以上